シリーズ 探訪 わが町文化財 その122

明恵上人生誕850年

令和5年（2023年）は、郷土の偉人である明恵上人が生誕して850年となる節目の年です。明恵上人（1173～1232年）は幼くして仏門に入り、主に京都を拠点に活躍した高僧で、鳥獣戯画が伝来したことで有名な高山寺を開いた高僧として知られています。天皇や貴族、武士、民衆に至る当時の人々に大きな感銘と影響を与え、慕われた人物でした。

明恵上人が活躍した時代は、源平合戦をはじめとした戦乱が続き、貴族から武士を中心とした社会へと移行していく大きな変革期でした。仏教界においても、武士や大衆の求めにあった新しい仏教が次々に生まれました。しかし、明恵上人は一宗一派の祖になることを望まず、奈良時代に栄えた仏教宗派のひとつであり「奈良の大仏」で有名な東大寺を本山とする宗派「華厳宗」の中興に力を注ぎました。

伝 明恵上人像（歓喜寺所蔵）
像高 50.7㎝

明恵上人は数多くの書物を著した熱心な学業僧であり、優れた弟子を育てるとともに、自身は仏の道を究めるための厳しい修行を重ね、本来あるべき姿の僧と仏教を追求した60年の生涯でした。

今年の「探訪わが町文化財」は、生誕850年を機に、改めて明恵上人の事績と郷土に残る関連文化財を紹介します。第1回目は「明恵上人の生誕について」です。

明恵上人は、承安3年（1173年）に紀伊国在田郡石垣荘吉原村（現在の歓喜寺地区）に生まれました。その場所は、現在の歓喜寺から西へ150mの地点にある国指定史跡吉原遺跡として今日に伝えられています。吉原遺跡に建つ石の卒塔婆には、承安3年正月8日の辰時（7～9時）に上人が誕生した場所であると刻まれています。

父は平家の家人（従者）であった伊藤重国です。平重盛を主君とする小松家の侍であり、京都の御所などの警固を務める武者所の地位にある人物でした。母は湯浅宗重の娘です。祖父の湯浅宗重は現在の湯浅町付近を本拠に、婚姻を通して近隣の有力な武士と結びつき、勢力を拡大していました。湯浅氏は平家の有力な家人であり、伊藤氏と同じく小松家に仕えていました。明恵上人の両親の婚姻は、小松家の家人同士であった伊藤氏と湯浅氏の結びつきを強固にする目的があったと考えられます。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL https://www.town.aridagawa.lg.jp